



BSR 通信

BSR 推進室ニューズレター第 33 号

平成 28 年 12 月 10 日

発行：大正大学 BSR 推進室

〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨 3-20-1

03-3918-7311 (代)

bsr_lab@mail.tais.ac.jp

寺院と地域社会とのつながりから

地域創生を考える

大正大学 地域創生学部 地域創生学科

教授 北郷裕美

目次

1 頁：巻頭言

2 頁：BSR レポート

4 頁：BSR トピックス / 今後の予定

今春「地域と共に歩む大正大学」に、文字通り「地域創生学部」が生まれました。わたくしは着任した頃より様々な「縁（えにし）」を感じています。奇遇ですが、前任校も宗派の違いはありますが仏教系の学び舎でした。学内にはいつもお線香の匂いが立ちこめ、また花まつりや入学式、卒業式など大きな行事の際は必ず阿弥陀様に手を合わせていました。学生のサークルには仏像仏具を磨くものもありました。そのようなわけで本学を初めて訪れた時もむしろ懐かしさを感じました。

私事ですが幼少の頃はちょうど核家族化の進む時代で、狭い官舎アパートに住んでおりました。そこには夭逝した姉の小さな仏壇があり両親とともに毎日朝夕線香をあげて拝みました。また通っていた幼稚園は徒歩 5 分程

のところであり仏教系でした。朝礼時には観音様に必ず手を合わせていました。そこは立派な山門とお寺がある大きな敷地で、いつも子供たちが伸び伸びと走り回っており、お坊様たちが笑顔で見守っておられました。今も帰省した折訪れますと、その光景を昨日の事のように思い出し感慨に耽ることがあります。

このようにわたくしの身近には、しばしばお寺や仏様のご縁がありました。我が国にはこれだけ寺院があるのだから当たり前と思われるかもしれませんが、昨今の地域社会と寺院の関りはその割に近いものではない気がします。先日ある研究機関のレポートを目にしました。タイトルは『寺院とのかかわり～寺院の今日的役割とは（2009年10月2日 第一生命経済研究所）』とい

うものでした。その中に地域生活者と寺院の関係が希薄になってきたことや「地域に根ざし、人々の生老病死に寄り添うという公益性」が寺院に求められているという指摘がありました。正直、わたくしは寺院側だけの問題とは思いません。我々が地域の資源としての寺院とどのように寄り添うかという視点も大切かと思います。相応しい例か否か自信はありませんが、映画「男はつらいよ」シリーズの中で、フーテンの寅さん（渥美清）が御前様と慕う住職（笠智衆）の存在は興味深いです。普段から寅さんはじめ地域の人々に尊敬され、よき相談相手でありまた叱咤激励される人格者でありながら、子供たちにも偉ぶらない存在として描かれています。このような関係が自然に成り立つ社会であればと思います。

確かに斯様な様子が普通に見られた時代はずいぶん遠くなったかもしれませんが、「地域と共に歩む大正大学」は前述した「失われつつ

ある地域と寺院の関係」を常に考え共生することをまさに実践して来たと思います。その歴史と建学精神を受け継ぎながら、地域創生学部は毎年

8 週間に及ぶ地域実習を中心とした学びの中で、これからも各地域の創生、人材育成を行えたらと思います。

BSR レポート

シンポジウム 共生^{ともいき}

去る 11 月 6 日、関東所在の浄土宗 宗立宗門 3 大学（淑徳大学、埼玉工業大学、大正大学）が集まり、淑徳大学千葉キャンパスでシンポジウムを開催しました。このシンポジウムは、浄土宗と各大学の主催で行われ、各大学で日ごろ社会連携活動をしている学生がそれぞれ発表を行い、その後ディスカッションを行うという流れで進められます。

昨年度は大正大学を会場に行き、各大学（昨年度はこの 3 大学に東海学園大学が加わり 4 校で行いました）の学生が参加している社会連携活動を報告し、その後、本誌 BSR 図書室でも紹介した『寺院消滅』の著者、鶴飼秀徳氏（「日経ビジネス」記者、浄土宗僧侶）がコーディネータとなり、学生たちの活動報告や社会連携活動についての思い、課題、可能性等について議論していきました。

今年度は、「共生～わたしたち学生、寺院、そして社会の可能性～」と題し、日ごろ社会連携活動を行っている学生が、その活動を生かした視点で、社会的資源といわれる寺院の社会的役割の考査と活動の現実性を検証するため、寺院との連携企画案をプレゼンテーションしました。



埼玉工業大学のテーマは「米と日本酒プロジェクト」です。同大学では、地元の農家の方と米作りをし、出来たお米で地元酒造会社の協力により「瞬喜道」という日本酒を造っています。お酒と寺院の関係を考える中で、学生にお酒好きと思われる同大学理事長松川聖業先生を引き合いにし、大人のたしなみである「お酒」を僧侶、地域の方が若者に教える「場」として寺院を活用してはどうかという提案でした。同大学の学生と松川理事長の距離が近いことを伺った埼玉工業大学ならではの提案でした。

淑徳大学の発表は、「西福寺のある弥富で里山ホームステイをしよう！」でした。弥富とは、千葉県佐倉市弥富地区で、同大学では、「ふるさと弥富を愛する会」という団体と連携して地域活性の様々な取り組みをしています。その弥富の魅力を知ったうえで、近年注目されている「教育を通じた地

域づくり」を、この弥富にある「西福寺（浄土宗寺院）」という場を中心に行うという提案でした。「弥富留学」ということで、都市部の小学校高学年の児童とその保護者にホームステイをしてもらい、現代版寺子屋として学習支援、食育（田舎飯）、自然探検などを子どもたち対象に実施し、保護者には里山散策、料理教室などを開催するという内容です。そして同大学で行った東北での学習支援ボランティアの経験を生かして弥富での教育活動に関わるとまとめました。

そして大正大学からの提案は、「浄土寺（仮名）フェス開催！」です。いわゆる寺院フェスティバル（寺フェス）です。街（地域）のコミュニティの中心としての「わが街の寺」の役割を再構築し、地域の一体感の創出と地域の魅力の再認識を図ることを目的として、「地獄から極楽へ そして一蓮托生」というテーマで行う寺のお祭りを提案しました。

この企画は、本学さざえ堂のお堂番をしている本学人文学科 3 年茨木美香さんの原案を、仏教青年会片山雅矢さん、横井郷さんが BSR 推進室間正の監修で形にしたものです。当日は鴨台祭開催中で茨木さんは参加することが出来なかったため、片山さん、横井さんの 2 名で発表しました。



このイベントは、寺院を会場にした仏教アミューズメントパークです。企画の詳細は次のとおりです。

「地獄から極楽へ そして一蓮托生」がテーマです。

まず地獄、救済、極楽の順に各エリアを巡って、ここでは気軽に仏教に触れてもらいます。

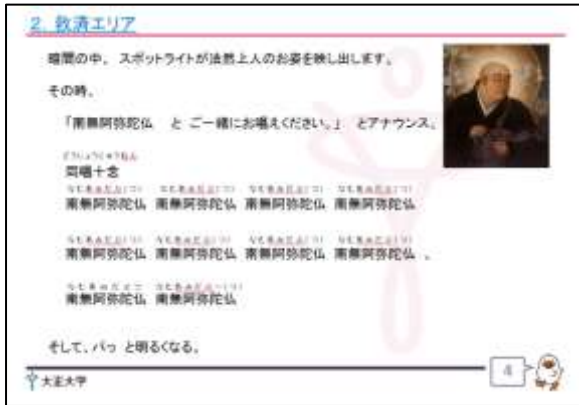
1. 地獄エリア 薄明りの中、灰山の地獄絵図を壁に貼って恐ろしい雰囲気をつくります。

- ・**死の体験**
入棺体験。棺に入ってみよう！
- ・**さっし 懸崖さま**
懸崖さまの掛け軸の前で、鏡（浄瑠璃の鏡）に自分を映し出し、自分の行いを振り返るように、自ら問いかけてもらいます。
- ・**雲の河津**
積み木を積んでももらいます。完成間近に、鬼が出てきて崩される…これを 3、3 度くりかえし、苦しみ、悔不を感じていただきます。
- ・**雪衣裳**
入棺前に着た白装束を、雪衣裳に身ぐるみ割られます。
- ・**針のムシロ道**
畳つぼマットの上を歩いてもらい、肉体的苦痛を味わっていただきます（実は、身体に良い）。

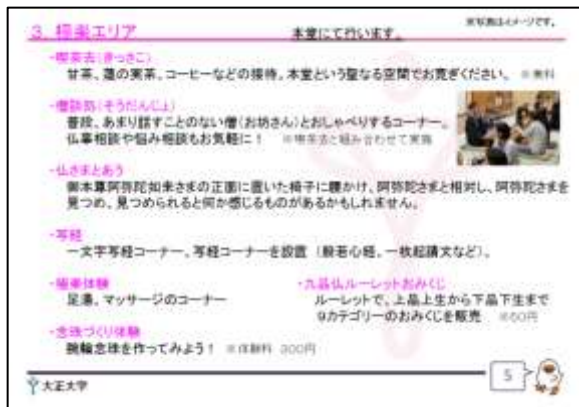
写真撮影：イメージ。

地獄エリアでは、お化け屋敷のような怖い雰囲気の中、「死」と「苦」を意識してもらうような体験してもらいます。死を意識することで、生、命、生きることを見つめてもらうことが目的です。

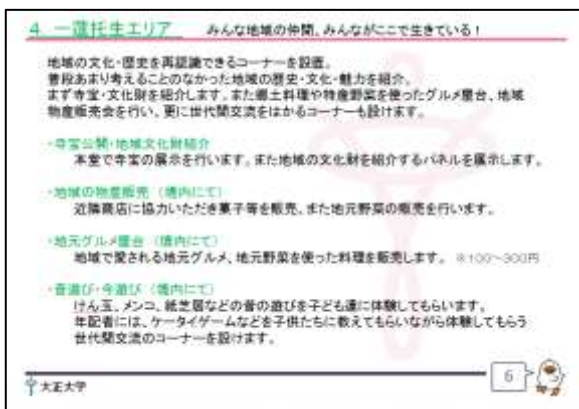
その地獄の中で、ひとすじの光明・・・法然上人、お念仏に出会ったのが次の救済エリアです。



そして極楽エリアへと至ります。ここでは楽しく仏教に触れていただけます。



次は「地域」に焦点を当てた一蓮托生エリアです。



ここでは、同じ地域に住んでいる、生きていることを「一蓮托生」と捉え、地域の文化・歴史を再認識できるコーナーを設置し、普段あまり考えることのない地域の歴史・文化・魅

力を紹介します。また地域の物産販売、地域グルメ屋台、更には世代間交流をはかるコーナーも設けます。

この寺フェスを通して、「お寺」という場で、まずは気軽に楽しく仏教に触れてもらうこと、そして様々なつながりを紡いでいく仕掛けがありました。そしてく私たちが持っている「ご縁」を再認識するイベントとして、また本堂という聖なる空間で、阿弥陀さまに見守られていると感じ、仏さまの智慧と慈悲に触れてもらう機会>とまとめていました。3 大学の中で唯一、仏教学部をもつ大学として、仏教のコンテンツをふんだんに取り入れた企画の提案でした。

このように 3 大学がそれぞれの特徴を生かし、学生のひたむきな姿勢で自由な発想の提案がなされました。

第二部では、この発表を受け寺院と地域との連携を模索するディスカッションを行いました。



テレビ朝日

「ぶっちゃけ寺」に出演している浄土

宗僧侶 井上広法師がコーディネータ

となり、各大学の学生、「ふるさと弥富を愛する会」事務局長岡本美典氏、「全国浄土宗青年会」理事長成田淳教師を加え、各大学の発表について、質疑応答や意見交換を展開しました。

特に成田師からは、同会が全国の寺院で「てらこやフェスタ」を実施した経験を踏まえ、本学学生が提案した寺フェスを成田師の「自坊を貸すのでやってみてはどうか」と驚きの発言もありました。井上師からも、「絵にかいた餅」ではなく、3 大学が協力して実施し、その結果をもって次回のシンポジウムで議論してはどうかとの提言をいただきました。こういった議論を通じて、各大学の発表の課題も見え、学生の発表がより具体化かつ深淵なものになっていったように思います。

この後、井上師によりご自坊「光琳寺」で行っている地域と連携しているイベント、地域の方を対象とした寺の取組み事例を伺いました。

とても充実したシンポジウムだっただけに、もう少し寺院関係者の来場が欲しかったと思いました。今回の学生の発表は、寺院活動の大きな刺激になると感じました。(M)



BSR トピックス

平成 28 年度 天台声明公演^{しょうみょう} 大般若轉讀會 開催

来る 12 月 17 日 (土) 天台声明公演 (主催: 大正大学台友会、協力: 大本山増上寺雅楽会、後援: 大正大学・大正大学山家学会) が開催されます。

本年は熊本地震をはじめ、東北・北海道の台風被害、鳥取地震など各地で多くの被害が出ました。これらさまざまな災害で亡くなった方々への追悼と一日も早い被災地復興、そして世界の平和を願い、「法華懺法法要 (ほっけせんぼうほうよう)」と「大般若轉讀會 (だいはんにやてんどくえ)」が執り行われます。

鑑賞ご希望の方は、本学 1 号館ロビーにある公演チラシ裏面の申込書を事前にお出しください。例年、会場の礼拝堂が超満員になる人気イベントです。お申し込みはお早目をお願いします。

- 日時 : 平成 28 年 12 月 17 日 (土) 午後 3 時開演 (開場 2 時 30 分)
- 会場 : 大正大学 礼拝堂ホール <全席自由席、入場無料>

※天台声明公演についてのお問い合わせは、大正大学天台学研究室台友会 (たいゆうかい) へお願いします。

今後の予定

12 月 17 日 (土)	9 時～	庚申塚町会 年末餅つき大会	南門 けやき広場
	11 時～12 時	花会式 (天台宗)	鴨台観音堂前
	9 時～13 時	あさ市	南門 けやき広場
	13 時～15 時	お坊さんカフェ「僧話花」	3 号館 1 階
	15 時～	天台声明「大般若轉讀會」	礼拝堂
1 月 1 日～5 日	9 時～16 時	鴨台さざえ堂初詣特別期間	
1 月 21 日 (土)	11 時～12 時	花会式 (真言宗智山派)	鴨台観音堂前
	9 時～13 時	あさ市	南門 けやき広場
	13 時～15 時	お坊さんカフェ「僧話花」	3 号館 1 階



巻頭言執筆者 紹介

北郷 裕美 (きたごう ひろみ)

大正大学 地域創生学部 地域創生学科 教授

小樽商科大学商学部 卒業 札幌学院大学大学院地域社会

マネジメント研究科 修士課程を経て、北海道大学大学院国際広報

メディア研究科 博士課程修了。博士 (国際広報メディア学)。

日本リクルートセンター (現在のリクルートホールディングス) 等でディレク

ター・プロデューサー職に従事。札幌大谷大学社会学部准教授を経て、

平成 28 年 4 月に大正大学地域創生学部教授に就任。

専門は、メディア社会学、コミュニティメディア論。

地域社会におけるコミュニケーションのツールとしてのメディア、特に地域

メディア (コミュニティ FM) や市民メディアを研究する。

※BSR 通信は、本学関係宗派の研究機関、仏教系新聞 各社、当該分野関係研究者および本学各学科などに配付しています。また、本学ホームページ「地域・社会貢献、鴨台プロジェクトセンター」の箇所にて公開しています。

巻頭写真

天台声明公演チラシ (一部抜粋)